

上下中学校学校運営協議会

- ★基本理念：「郷土への誇り、思いやりと粘り強い心を持ち、
社会に貢献する子どもの育成」
- ★コンセプト：「地域へ『ありがとう』 地域から『ありがとう』」
- ★キャッチフレーズ：「みんな大好き わが郷土 上下」



マスコットキャラクター
あやめちゃん

1 コミュニティ・スクールの取組みを通して育てたい子ども像

本校は、平成27年度から2年間の研究期間中、地域の子どもの「どんな子どもに育てるか」「どんな子どもに育ってほしいか」を推進委員会や、上下学園PTA主催の講演会（保護者、地域住民、教職員参加）や地区懇談会（町内会長、民生委員児童委員、保護者参加）や学園全教職員で熟議を行ってきた。

また、上下全町民の思いを把握するため、「現在の子ども様子」や「地域総ぐるみで育てたい子ども像」のアンケートを上下町内全戸と上下学園の保護者に実施した。町内全世帯約1500戸から約900戸近く、保護者からは別に約100戸のアンケートを回収することができた。

まず、子どもの実態として、「府中市生活調べ(6段階)」の結果から①思いやりの心、②粘り強さの項目に課題があると捉えた。その2項目における保護者・地域アンケートでは肯定的評価がそれぞれ以下の通りであった。

項目	保護者	地域
①思いやりの心	98.0%	—
②粘り強さ	91.7%	17.7%

①に関しては、保護者の願いや期待が表れていた。②に関しては、保護者と地域との意識のずれが見られた。

また、「どんな子どもに育ってほしいですか」の項目において、地域・保護者共に強く願うことは「思いやりの心を持ち、周りの人と生活できる」ことであった。反面、「地域を愛し、地域に貢献できる」子どもに育って欲しいと願う地域住民に対し、保護者との意識のずれがあった。

生徒の実態、保護者・地域の願いや意識のずれを埋め、学校・保護者・地域の三者が共通理解のもと、進めていくことができるように、基本理念を「郷土への誇り、思いやりと粘り強い心を持ち、社会に貢献する子どもの育成」とした。

お互いの共通理念を持って取組みを進め、その過程で、「お互いが進めて良かった」という”WIN WIN”の関係であることをめざし、さらにコミュニティ・スクールが地域に根付き、「地域へ『ありがとう』 地域から『ありがとう』」となるように推進している。

2 学校の特色を生かした取組み

1 学園での取組み

ア 小中高合同清掃活動

8月8日（水）に小学5・6年生、中学生、上下高校生有志、町内会長、民生児童委員や保護者・地域住民の約320人の参加により地域清掃活動を行った。

当日までに、①各地区中学生の話し合い、②各地区中学生リーダーと町内会長との話し合い、③各地区中学生リーダーから小学生への事前指導、④コミュニティ・スクールだよりを作成し、町内会回覧板で呼びかけるなどの取組みをすすめた。

実施後、生徒からは「活動中に『きれいにしてくれようなあ。ありがとう。』と私たちの活動に感謝の声をかけてくださいました。嬉しかったし、やりがいを感じました。」また地域からは、「子どもたちが、地域の人と触れ合いながら掃除を通じて顔見知りになっていける活動になっているから意味がある。」「子どもたちが頑張ってくると地域が元気になる。」という声が聞かれた。

各町内会で清掃活動



町内会長との打合せ



イ 翁山の夢ツリープロジェクト

昨年度、翁山を大きなクリスマスツリーと見立てて、ライトアップする行事を9年ぶりに復活させた。上下学園の3校と地元高校の計4校と地域の協働で本年度も取組みができるように進めていく。その学園の母体となる学園各校の学校運営協議会の代表等で構成される上下学園学校運営協議会を開催した。このプロジェクトにより、郷土への誇りを持つ生徒の育成を図る。

昨年度の点灯式より



2 上下中学校での取組み

(1) 「地域部会」の取組み

ア 花いっぱい運動、花の植え替え、水やり

生活美化委員会の生徒を中心に育てた苗を、委員会の生徒たちと「地域部会」部員を中心に学校運営協議会のメンバーが花の植え替えを行い、生徒会執行部・生活美化委員・保護者とともに花を植えたプランターを地域へ配付した。休日の水やりは「地域部会」のメンバーが行った。生徒・保護者・地域が一緒になって、豊かな心を育むとともに故郷上下をきれいな街にしていこうと、活動を進めた。



イ 学校花壇の水やり、草取り

花いっぱい運動で配付するプランターだけでなく、学校花壇の水やり・草取りを行っている。「花も心もイキイキプラン 当番表」を作成し、継続した活動を進めている。



(2) 「学習部会」の取組み

ア 学習環境の整備・図書整理

学校図書室の本がバーコード化管理されることに伴い、図書委員会の生徒や司書が中心となり進めていた整理を、「学習部会」委員を中心に支援した。生徒会委員会とコラボした活動で、生徒の学習環境を整えることに努めた。



イ 学習支援

今年度は家庭科免許所有教員が配置されなかったため、2年生の裁縫指導の時間に地域の方に協力をいただいた。人選を「学習部会」を中心とした学校運営協議会のメンバーが行い、複数名の支援を得た。そのおかげで、生徒たちは時間がかかっても粘り強く作品を仕上げることができた。



ウ ゲストティーチャー：地域から学ぶ

3年生の総合的な学習の時間においては、「上下町の活性化の取組み」「おやき試作」、2年生では「働くことについて」、1年生の「お年寄りをもてなす活動指導」など、多くの方の協力を得て、地域ぐるみで生徒を育てている。

地域の方から上下を学ぶ



働くことについて



「おやき」づくり



(3) 地域で学び、地域に誇りを持つ取組み

3年生の総合的な学習の時間においては、「上下町の活性化の取組み」を地域行事に参加し、研究仮説を検証するなかで、上下を愛し、地域に貢献する力を伸ばしている。

ア 英語ガイド

上下を訪れる外国人観光客に、上下を紹介するガイドに取り組んでいる。



イ 地域行事に参加

地域の祭りに参加し、おやきの販売や開発したグッズを配る活動を通して、地域を活性化させている。



ウ 上下を広報

地域の様子や活性化に向け、取り組んでいることを幅広く広報し、ひろおく便りでも紹介された。



3 今後の方向性

成果と課題

(1) 成果

ア 全国学力・学習状況調査より

全国学力・学習状況調査で『地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか』という項目に対し、肯定的評価が71.4%（全国平均38.7%）であり、子どもたちが地域の中で育っており、地域に貢献したいという意識は育ってきている。

イ 各部会の取組み

各部会とも生徒とともに活動する取組みの立案を行い、計画的に実施することができた。

ウ たよりの発行

町内会回覧板を活用して、コミュニティ・スクールだより（7号発行済）を町内全戸に回覧することができた。

(2) 今後の方向性（課題）

学校・地域・保護者が、「育てたい子ども像」を共有し、双方向で子どもを育てていくために啓発活動及び実践を上下町全体に浸透させ進めることが必要である。

コミュニティ・スクールとしてのそれぞれの取組みが継続性のある取組みとなっているか、育てたい子ども像にも照らし合わせ改善を図りながら進めていく。